

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

チャレンジ岡崎

代表者名

杉山 智騎

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 6 年 3 月 29 日提出

活動年月日	令和 6 年 2 月 6 日 (火) ～ 2 月 8 日 (木)	
氏名	杉山智騎、近藤敏浩、青山晃子	
用務先 及び 内 容	1 2月6日	用務先 島根県出雲市
		内 容 出雲農業未来の懸け橋事業及び新出雲農業チャレンジ事業について
	2 2月7日	用務先 京都府福知山市
		内 容 アフター大河「光秀マインド」を活用したシティプロモーションについて
	3 2月8日	用務先 奈良県
		内 容 奈良県コンベンションセンターについて
	4	用務先
		内 容
備 考		

令和5年度 行政視察報告書

令和6年3月29日（金）

チャレンジ岡崎 杉山 智騎

近藤 敏浩

青山 晃子

1. 視察日程

令和6年2月6日（火）～2月8日（木）

2. 視察先及び視察内容

（1）島根県出雲市

出雲農業未来の懸け橋事業及び新出雲農業チャレンジ事業について

（2）京都府福知山市

アフター大河「光秀マインド」を活用したシティプロモーションについて

（3）奈良県

奈良県コンベンションセンターについて

3. 視察内容

■視察先：島根県出雲市 2月6日（火）14:30～16:00

面積：624.32 km²

人口：17万人

2005年に旧出雲市・平田市・簸川郡大社町・湖陵町・多伎町・佐田町の2市4町が新設合併、さらに2011年に斐川町を編入。

■調査項目

出雲農業未来の懸け橋事業及び新出雲農業チャレンジ事業について



出雲農業未来の懸け橋事業

<事業概要>

平成30年度に「21世紀出雲農業フロンティア・ファイティング・ファンド事業」（旧出雲市）と「ひかわ元気農業支援事業」（旧斐川町）の2事業を統合し、「出雲農業未来の懸け橋事業」創設した。担い手の育成や農畜産物の生産拡大への支援など、農業者及び生産組織の経営安定に資することを目的に、出雲市とJAしまね出雲地区本部・斐川地区本部の共同事業として実施している。

<事業の内容>

農産振興、特産振興、畜産振興を図る事業の他、新規就農者等を支援する特認事業、地域の課題に対応するJA独自事業の5区分としている。また、令和3年7月の大雨による農地被害等が多数発生したため、緊急対策事業として、「令和3年7月豪雨災害復旧緊急対策事業」を創設し、農地や農業用排水施設の早期復旧を支援している。

<事業実施体制>

出雲農業未来の懸け橋事業推進協議会

- 会長：出雲市副市長
- 事務局：市、JA両地区本部営農企画課
- 予算負担配分
(共通メニュー)
市：7,500万円
JA：7,500万円（出雲地区6,000万円、斐川地区1,500万円）
(JA独自メニュー)
JA：1,300万円（出雲地区1,000万円、斐川地区300万円）

・市とJAの連携体制

【市の役割】協議会の運営、補助金交付手続き、入札のサポート

【JAの役割】農家への周知や相談対応、申請手続きの支援

【情報共有】事業実施における連携を密にしながら取り組んでおり、課題等も共有している。

・課題 『農業情勢の変化に対応した事業メニュー』

- ① 担い手の高齢化
- ② 中山間地域農業対策
- ③ 小規模家族経営
- ④ 新農業技術（スマート農業等）
- ⑤ 環境保全型農業
- ⑥ 鳥獣被害など



・今後の展望

- ① 現在 1 期 3 年の事業期間が終了することから、メニューの見直しを検討中
- ② 農業情勢の変化に対応した事業メニュー
 - ・農繁期の労働力確保への支援
 - ・集落営農組織の後継者確保・育成活動を支援
 - ・家族経営農家を継承する後継者への支援
 - ・収益性が高い水田園芸への支援
 - ・市内産自給飼料の安定供給に向けて WC S 用稲の作付支援
 - ・有機 J A S 認証取得者への支援
 - ・地域に根差した多様な担い手への支援
- ③ 市の単独事業である「新出雲農業チャレンジ事業」とのすみわけ

新出雲農業チャレンジ事業（令和5年度予算額：2,100万円）

<事業概要>

将来を見据えた農業振興を図るため、地域農業（農村社会）の維持やモデル的・先駆的取組等を支援する市の単独事業である。

(1)中山間支援 (2)担い手支援 (3)モデル的・先駆的取組支援 の3つの事業目的の下、9種類のメニューがある。

<事業の内容>

(1)中山間地域農業支援事業

芝の畦畔吹付、自走式草刈機等の除草省力化や中山間地域の課題を解決する経費等を補助

(2)担い手支援事業

新規就農者・親元就農者に対する担い手支援や、遊休農地の利活用にかかる経費等を補助

(3)モデル的・先駆的取組支援事業

国事業により実証されたスマート農業技術の導入経費やトキの放鳥に向けた環境保全型農業の取組経費等を補助

<事業イメージ>

中山間地域農業支援事業	担い手支援事業	モデル的・先駆的取組支援事業
- 中山間地域除草作業省力化支援事業 - 中山間地域農業課題解決メソッド提案事業	- 新規就農支援事業 - 親元就農促進事業 - GAP認証取得支援事業 - 遊休農地等利活用事業	- スマート農業推進事業 - チャレンジ品目生産支援事業 - トキと歩む環境農業推進事業

- ・事業の成果

「中山間地域農業の支援」「担い手の支援」「モデル的・先駆的取組の支援」の3本柱で事業メニューを構成しているが、市が政策的に支援すべき課題の解決に向けて一定の成果はあったと思われる。

- ・課題

- ① 農業情勢の変化に対応した事業メニュー
- ② JAとの共同事業である「出雲農業未来の懸け橋事業」とのすみわけ

- ・今後の展望

- ① 現在1期3年の事業期間が終了することから、メニューの見直しを検討中
- ② 農業情勢の変化に対応した事業メニュー

4. 所感・提言

【杉山 智騎】

本事業は農業に対して「中山間地域農業の支援」「担い手の支援」「モデル的・先駆的取組の支援」を事業の柱として、様々な取組を行っている。大きなJAとの連携である。出雲市の農業振興課に属している農業支援センターにはJA職員が2名駐在しており、市とJAで事務局を担当している。市の役割とJAの役割を明確化させて、常に情報共有していることも事業の軌道修正やグレードアップも迅速に行うことができる。また、出雲農業未来の懸け橋事業は出雲市とJAが共同事業とし、新出雲農業チャレンジ事業は出雲市単独事業とすることでメリハリのある支援となっている。非常に多くの事業が組み込まれているが、本市に導入すべきと考えるものも多くあり、参考にしてもらいたい。特に、中山間地域除草作業省力化支援事業、親元就農促進事業、遊休農地等利活用事業など。本市も様々な取組や支援を行っているが、常に農業従事者の声を聴き必要な支援を行って、U・Iターンでの新規就農者などが増えることを期待します。

【近藤敏浩】

出雲市に未来を見据えた農業の取り組みを視察する為に伺いました。出雲市はもともと農業の集約化率が高い斐川地区と、それ以外の旧出雲地区が合併した市です。説明に当たった市担当者は、斐川地区出身者でした。旧出雲地区は中山間地域が多い山がちな地区で、大規模な水田耕作には向いておらず、故に酪農などを伸ばしています。市内産飼料利用定着化促進事業にて、市内で生産された飼料用米、WCSの購入費補助を行う事により付加価値の高い和牛の生産を促し、大きな成果を上げています。

農業の担い手を集める事業では、女性主導の新規就農世帯が集まっているとの事です。親が農家である新規就農者に、以前の制度では出なかった補助金が出るような制度を新設したとのこと納得できます。その他担い手不足対策としてスマート農業を推進しています。ドローンによる防除、RTK-GPS 付きトラクター、水田の水位センサー・ハウスの温度センサーによる遠隔監視システムなどに取り組んでいます。その他補助金においても微に入り細にわたり豊富な補助メニューが用意されていました。

何よりも、担当者の意欲が強い事に驚きました。もともと水田集約化が進んだ斐川地区親の農家出身であるとの事でしたが、中山間地区の施策においても常に改善を念頭に動いている様子がよく分かりました。今回の視察が実のあるものと感じられたのは彼のおかげかもしれません。

【青山晃子】

平野部から山間部まで地形が多様であることから多種多様の農産物が生産されている。かけはし事業は、「担い手の育成」や「生産拡大」「産地の維持」を目標とし、総合的な支援を行っている。出雲市とJAが協力して進めているが、市との共同予算以外にJA独自の予算も計上するなど非常に前向きに取り組まれている。また、JAしまねについては、合併の歴史から出雲地区本部、同斐川地区本部に分かれているが、それぞれに得意を生かすことができるため、よい効果が生まれている。環境保全型農業やスマート農業など多くの事業について細かくサポートが用意されており、かゆいところに手が届くイメージである。本市も平野部、山間部ともに抱えており、それぞれに違う課題を抱えている。国県メニューを活かしつつ、農業従事者とよく話し合い、必要な事業支援を行っていくことを期待する。

■視察先：京都府福知山市

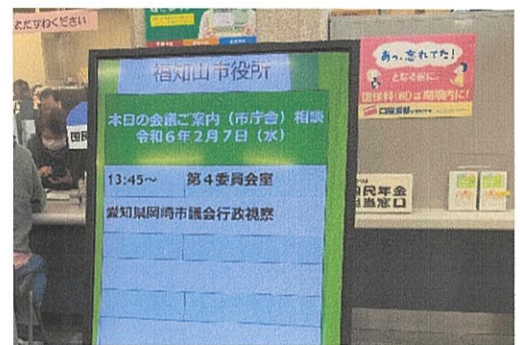
アフター大河「光秀マインド」を活用したシティプロモーションについて

i) 視察内容

・福知山市シティプロモーションの概要

＜シティプロモーションの定義＞

地域を持続的に発展させるために、その魅力を発掘し、内外に効果的に訴求し、人材、物財、資金、情報などの資源を地域内部で活用可能とする取組



5年間のシティプロモーション成果 H30(2018)～R4(2022)年度

行動変容

- ・市外ファンクラブ会員 300人→**3470人**
- ・クラウドファンディング**3500人、1200万円**
- ・企画参加 **3万人以上**
- ・#いがいと福知山Instagram投稿 **8.5万件**

意識変容

- ・シティP・広報によりまちの良い変化を感じる市民 **62%**
- ・市民の地域推奨・参加意欲 **上昇**
- ・市内外のメディアや団体から取材・講演申込が **年々拡大**

認知拡大

- ・メディア露出（TV・新聞・Web・雑誌・ラジオ） **4300件** ※転載含む
- ・YouTube **150万回再生**
- ・Instagram & Twitterインプレッション **1500万**
- ・CM視聴者数 **200万人**

・ドラマ終了後の取組

□明智光秀プロモーション事例

1. 大河後のコンセプト「光秀マインド」：福知山のまちづくりへの挑戦心

：コンセプトムービー「光秀マインド」が地域プロモーションアワードで「箭内道彦賞」受賞

2. 福知山城チャレンジ：城活用アイデア募集 光秀能に決まる

3. 福知山の変：明智光秀そっくりさん募集
：変化人 〓まちを変えていく人

・ドラマの効果持続のための情報発信

大河ドラマ前・中 全国の歴史好き認知・変容



大河ドラマ後 まちづくり 意識・行動変容



■ 大河ドラマ放送前・放送中

プレーヤー



福知山市役所

サポーター



市内外の人

■ 大河ドラマ放送後

プレーヤー



まちづくりに
やる気のある人
(市内外)

サポーター



市役所 &
市内外の人

この人たちは
すごい！
応援
しましょう！

・アフター大河バトンプロジェクト

□福知山高校の生徒が大河ドラマで活気づいたまちの盛り上がりを持続させるために発案したもので、高校生を対象にした問題解決・提案型の全国大会「デザセン2021」で上位10傑にも入った。

□福知山市が主催する、主体的に行動できる「光秀マインド＝まちづくりへの挑戦心」を持った人材を育成するための事業「若者まちづくり未来ラボ事業」のプロジェクト。

□大河ドラマ『麒麟がくる』のゆかりの地にある福知山高校の生徒が主体となって、全国各地の高校生が大河ドラマをきっかけにつなぎ、相乗効果での地域活性化をめざし活動している。

□2022年度は各地にゆかりのある大河ドラマをテーマにした黑板アートグランプリ大会を豊岡市出石町にある最古の芝居小屋「永楽館」にて12月17日に開催。『麒麟がくる』（2件）、『青天を衝け』、『鎌倉殿の13人』、『八重の桜』がテーマの作品が制作され、Zoom参加の深谷商業高校と鎌倉女学院中・高等学校を含む出場5校が制作時のエピソードや作品に対する思いなどを発表し、審査員から質問やコメントがありました。作品のメッセージ性、華やかさ、プレゼン内容などから厳正な審査の結果、鎌倉女学院中・高等学校の作品「鎌倉 由比ヶ浜、日射る」がグランプリに選ばれた。

#アフター大河バトンプロジェクト



引用: <https://www.kyoto-be.ne.jp/fukuchiyama-hs/cms/?p=33>

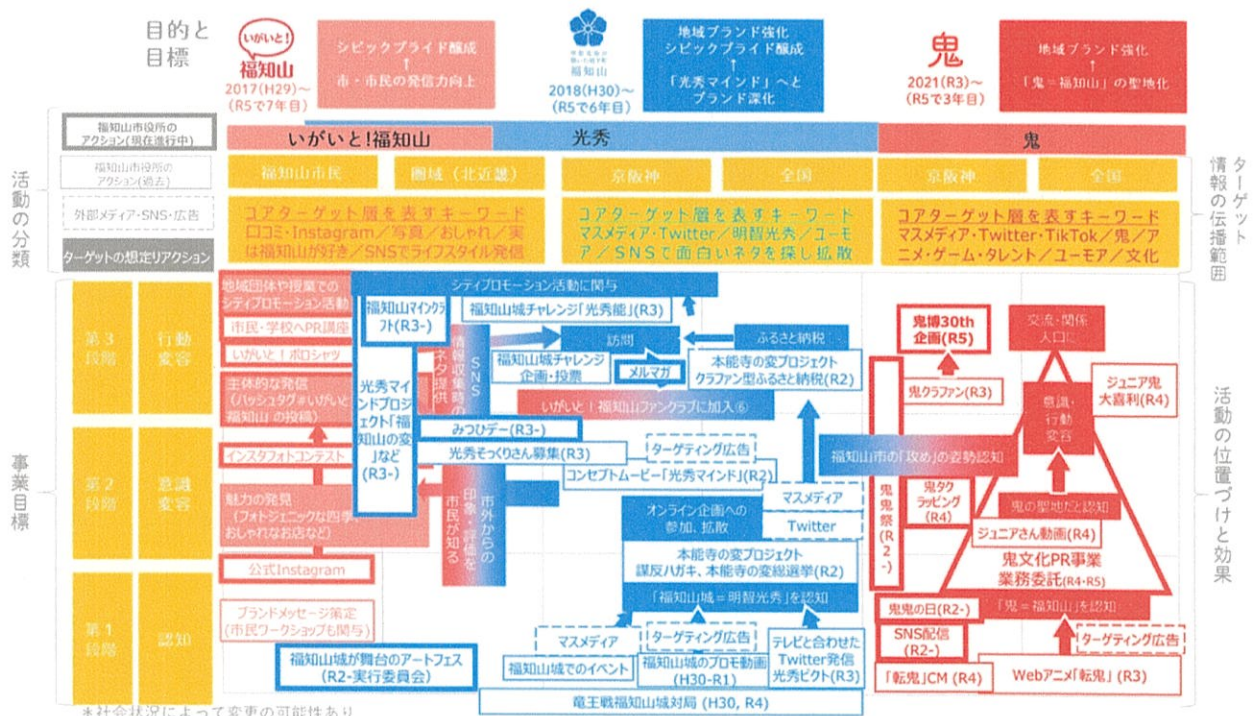
・取組の効果、実績について

広報課で今回大河後の取組を中心に担当した職員は福知山市の外からこのプロジェクトのために採用された職員です。

その人物、独特のロジックモデルにて効果実績を表します。

ロジックモデル

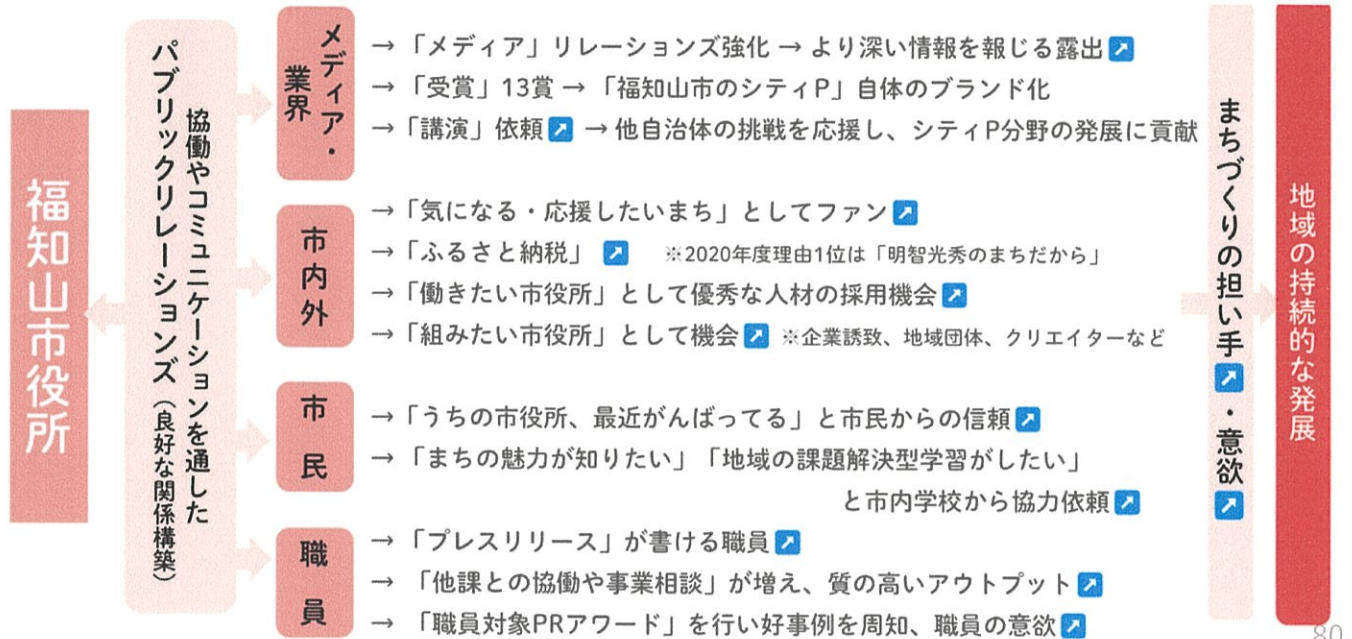
なぜこの活動をするのか、活動した結果としてどんな効果が見えるのかを、論理的なつながりとして示した図のこと（シティプロモーションワードより）



・現在の課題、今後の展開

職員のPRが足りない→「職員対象PRアワード」を行い好事例を共有・周知、職員の意欲をあげる。

＜シティプロモーションの波及効果＞



ii) 所感・岡崎市への提言

【杉山 智騎】

本事業は大河ドラマ「麒麟がくる」を一過性のものとしないう光秀マインドとしてシティプロモーション行っていったもの。一番重要なことは「最終的に福知山の挑戦への参画者・応援者を増やしたい（観光ではなく）」である。2017年から始まった「いがいと！福知山」の事業ははじめとしたロジックモデルが素晴らしい。一目では理解しがたいが、様々な相互関係が記載されており、よく



考えられた構想であると感じた。大河ドラマ放送前・放送中は福知山市役所やプレーヤーとなり市内外の人に声をかけることによりサポーターを増やしていき、大河ドラマ放送後にはまちづくりにやる気のある人がプレーヤーになって市役所や市内外の人がサポーターとして応援する形に変化させた。シティプロモーションの波及効果もしっかりと出ており、その結果、まちづくりの担い手も向上し、意欲の持った市民も増え、地域の持続的な発展の後押しとなった。本市の大河ドラマを利用したシティプロモーションに関して、大河ドラマ放映前はほとんど実施できず、放映中は中途半端になってしまった。放送後、つまりアフター大河をどのように活かしていくかが問われている。

【近藤敏浩】

大河ドラマ「どうする家康」の放送終了にあたって、アフター大河事業先行事例に当たる大河ドラマ「麒麟が来る」の主人公で有り、福知山を作った明智光秀を活用したシティプロモーションについて視察しました。

シティプロモーションにあたり、ブランドストーリーを「明智光秀の築いた城下町福知山」としたとの事です。「家康公が生まれたまち岡崎」と同じでしょうか。そのブランドストーリーを市民に浸透させる為、広報課職員が行った事で一番印象に残ったのは、市民全員へのアウトリーチによる「光秀そっくりさんコンテスト」です。市からの通知に載せる形で費用を節約したうえ、全市民を巻き込んだ事業とした事に感心です。次々と手を打っていきます。新作品「光秀能」、光秀マインドが変革マインドでもあるという



物語を作り、本能寺の変ならぬ福知山の変、変化を恐れない心を光秀マインドとしその心を持つ「変化人」にスポットを当てる事業など、シビックプライドを醸成する事に成功しています。今回大河後の取組を中心に担当した職員はまさにこの「変化人」です。福知山市の外からこのプロジェクトのために採用された職員だから出来たのかもしれませんが、本市の職員にも「変化人」はいると思います。人口8万人に満たない福知山だからできた事ではなく、福知山に負けないように本市にはがんばって頂きたいです。

【青山晃子】

市内在住者の約86%が市内で通勤・通学している。現役世代を中心に昼も夜も生活のほとんどを市内で過ごす人口がこれだけいるのは強味だが、住みやすさが市民プライドに繋がるかといえばそうではなく、地域参加意識が低いことを問題視しシティプロモーションを行っている。コロナ禍でありながら、非常にうまい広報、アイデアで全国広報コンクールで金賞を受賞している。市役所職員がプレイヤーからサポーターへ回することで、市内の人財に光を当てているが、関わる職員がみな若く、考え方が柔軟であること、



と、同世代を巻き込みやすいのも利点と考える。高校生が対象の「アフター大河バトンプロジェクト」では、高校生に身近な黒板を使ってアートに取り組んでいるが、巻き込みたい対象に合わせたプロジェクト内容を立ち上げることができているからこそ、前向きな参加、成果につながっているように見える。サポーターに徹するためにはまず市内にプレイヤーとなる市民を見つけなければならない。「変化人」と銘打った企画ではありきたりのまちづくりプレイヤーだけでなく様々な人材を発掘しており、トークセッション後に地域参画意欲のポイントが上がっているのは素晴らしい。本市においても、目立つ地域だけでなく、幅広い視点でまちづくりの人材発掘いただくことを期待する。

■視察先：奈良県

2月8日（木） 11：00～ 14：00～（現地視察）

i）奈良県コンベンションセンターについて

○奈良県コンベンションセンター

<全体図>



<概要>

区分	敷地面積／延べ床面積／構造	コンベンション施設	天平広場
内容 利用イメージ	約 2.3ha／ 約 35,000 m ² ／ 地上 2 階地下 2 階、 鉄筋コンクリート造	【1 階】 コンベンション ホール、小会議室 【2 階】 中会議室	大屋根付き屋外多目的広 場
区分	観光振興施設	天平ホール	駐車場／ バスターミナル
内容 利用イメージ	飲食・物販機能 蔦屋書 店、スターバックス、コ ンビ二等のテナント	可動式階段型 座席の劇場空間	地上 70 台、地下 330 台 ／バス乗降場、待合施設

○事業の基本方針：「奈良らしさ」の体感

世界遺産を擁する古都奈良にふさわしい観光・交流拠点

(1) 天平建築をデザインモチーフとした形態

(2) 奈良らしさを代表する素材、色等の使用（奈良県産木材の使用）

○施設概要 コンベンションホール

- ・面積 2,100 m²、天井高 9.9m の最大 2,000 人収容のメインホール
- ・内壁には吉野杉の無垢材を使用
- ・通訳ブースは同時に最大 9 カ国分対応

○施設概要 1 階会議室（会議室 101～108）

- ・可動式間仕切りにより 2 室一体利用が可能（50 m²→100 m²）
- ・小規模な会議、研修等から大規模催事の控え室としての利用にも最適

○施設概要 2 階会議室（会議室 201～206）

- ・可動式間仕切りにより 2 室一体利用が可能
- ・格調高い内装により学会分科会、国際会議、式典に最適
- ・150 m²、300 m²、600 m²の規模に合わせることができ、幅広いニーズに対応

○施設概要 天平広場

- ・面積 1,000 m²上、天井高 13m の屋外イベントスペース
- ・屋根は格天井をモチーフに木漏れ日をイメージしたトップライトを設置
- ・マルシェ、展示会、グルメイベントのほかコンサート、パーティーの開催も可能

○施設概要 天平ホール

- ・面積 600 m²、天井高 8m、階段型座席の劇場空間
- ・シネマ対応の 500 インチスクリーンを有し、映画上映会、演劇、講演会に最適
- ・座席は後部壁面に収納することができ、平場としての利用も可能

○施設概要 観光振興施設

- ・蔦屋書店が観光振興施設を運営
- ・県産品、伝統工芸品の物販、県内アーティストの作品展示
- ・販売や、県産食材を活用したレストランを整備
- ・「旅コンシェルジュ」が様々な観光案内・交通案内を提供
- ・提案
- ・コンビニ、スターバックス、中川政七商店がテナント入居

○施設概要 駐車場・バスターミナル

- ・平面駐車場 70 台、地下駐車場 330 台の計 400 台収容可能
- ・空港バス（関西国際空港 90 分、伊丹空港 60 分）直結
- ・奈良公園、平城京跡を周遊する「ぐるっとバス」の乗り入れ
- ・バス待合所、タクシー乗り場を整備



○ホテル事業について

名称	JW マリオット・ホテル奈良	階数・高さ	地上 6 階・地下 1 階
所在地	奈良県奈良市三条大路 1 丁目 1-1	構造種別	鉄骨造・一部鉄筋コンクリート造
用途	ホテル	敷地面積	約 3,965.76 m ²
客室数	158 室	建築面積	約 3,151.14 m ²
館内施設	レストラン、ロビーラウンジ・バー、スパ、フィットネスセンター、宴会場、会議室	延床面積	約 18,145.96 m ²
経営	MT&M ホテルマネジメント(株)	運営	マリオット・インターナショナル

・スケジュール

工期：2017 年 12 月 1 日～2020 年 2 月 28 日 ホテル開業：2020 年 7 月 22 日

ii) 所感・岡崎市への提言

【杉山 智騎】

座学を終えてからから実際に現地での説明を受けたが、一目見た感想は“圧巻”だった。街区については、元県営プールや警察署などがあった場所で非常に広い敷地で堂々とした建物に感じた。誘致したホテルはマリオットで最高級クラスの「JW マリオット・ホテル奈良」。日本ではここにしかないとのことで、ホテル事業者としても大きな期待をしていることが理解できる。現在では稼働率は驚異の 50%。私たちが訪問したときも、デジタルメッセ奈良が開催されており、大変な盛り上がりを見せていた。立食パーティーなどのケータリングを温めるパントリーも見せてもらったが、とても広くきれいで、何も問題なく通常の調理が



出来そうな空間であった。VIP も利用できるよう VIP 用の待合室もあり、利用方法の可能性を大いに秘めている。空港バス直結という環境も大きなメリットで、関西国際空港や伊丹空港への距離を活かしたものとなっている。本市のコンベンション事業については白紙状態となっているが、コンセプトや事業方針がぶれないように他市や他県の先進事例や世界情勢なども鑑み、市内事業者や自然科学研究機構などとも意見交換を行い、事業を推進していただくことを要望いたします。

【近藤敏浩】

本市においてコンベンションセンターが計画されていた為、先行事例としてぜひ見ておきたいとの思いで視察しました。まず、「規模」と「売り」に圧倒される。とにかくでかい。そして、壁面やホワイエ天井に木材をふんだんに使用した奈良らしさを体現したデザイン、天平広場の壮大さを感じさせる屋根、隣接する建物と統一感のあるデザイン、施設を彩るアート作品、調度品など「売り」が多くあり、是非使ってみたいと思わせる。



もともと本市においても収容人員 1,000 人規模の中途半端なコンベンションセンターを展開する事に疑問の声がありました。奈良コンベンションセンターの規模感は本市にも必要であると思われる。

奈良県コンベンションセンターの稼働率が高い理由に使い勝手の良さがある。2000 人規模のシアター利用から 300 人規模のスクール利用までパーティションの移動によって対応できる。

ホテルが少ないことで有名な奈良県に外資系一流ホテルが次々とコンベンションセンター周囲に出来てくることもさらに魅力をあげることとなる。

センターの立地は鉄道駅から離れており、決して便利とは言えないが、鉄道駅や空港行きのバスが豊富にある。隣地にバスターミナルが設置されており、そこから雨に濡れることなくコンベンションセンターへと歩いていける。

要求水準を超えた仕様なのかは不明であるが、本市にてコンベンションセンターを建設するのであれば、奈良コンベンションセンターの水準を要求することを考えるべきである。

【青山晃子】

「奈良らしさ」をキーワードに、ホテル、NHK まで含めた一貫性のあるデザインは素晴らしい。可動式の壁により柔軟な利用が可能であり、空港からのアクセスや、賓客室などの用意も格を上げている。一方で蔦屋書店やコンビニ、レストランなど、外からの誘客だけでなく、地元で暮らす市民にも目が向けられている。市役所隣接という立地もよく、防災拠点としても活躍しそうだが、現状防災拠点としての位置付けはないとのこと。広大な屋根下空間を持っており、ここでは様々な主体によるイベントも開催されており、市民に近い公共施設と言える。キーワードに「奈良らしさ」が掲げられているように、奈良コンベンションだからこそ！という強味を持っていることで利用率は伸びている。利用率のアップに伴い、市内に新たな宿泊施設の建設も進んでいる。本市においても、名古屋や豊橋ではなく岡崎が選ばれるためにはなにが必要なのか、専門家の手を借り、冷静に見つめ計画していただきたい。